



鉄道建設・運輸施設整備支援機構 敦賀鉄道建築建設所長 阿部 祐介氏

お聞きしました。

■建築工事では
北陸トンネルを抜け、敦賀駅・敦賀車両基地まで至るルートの中で、敦賀駅、敦賀車両基地および変電所などの電気建物が主な建築工事となります。

敦賀駅デザインコンセプト

「空にうかぶ～自然に囲まれ、港を望む駅～」

敦賀駅デザインイメージ

「煌めく大海から未来へ飛翔する駅」

- 外観は、壁面のガラス面などをランダムに配置し、敦賀湾の波の煌めきを表現したデザインで、敦賀湾の豊かな自然を感じられる駅をイメージ
- 中央の屋根は、市の鳥であるユリカモメが飛翔する姿や、船首のシャープさをイメージした特徴的な大屋根を設け、自然豊かな敦賀のシンボルとなるデザイン
- ホーム階の外壁は明るく軽快感のある白色系を基調とし、コンコース階は濃淡系の外壁面をセットバックすることで、上下を分節し、建物の威圧感を抑え、浮遊感を演出

■敦賀駅
駅は新たな地域の玄関となり、様々な方を迎え、送り出す場所となります。特に敦賀駅は当面の終着駅としてその役割は大きく、駅舎は市民の皆さまに愛されるシンボルとなればと考えています。

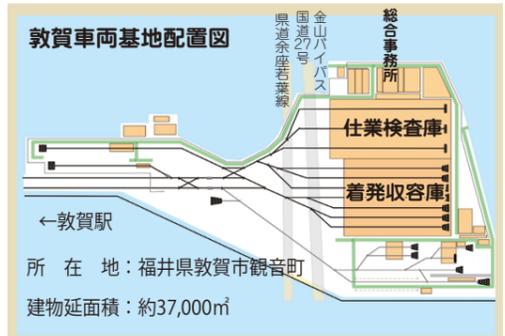
▼ユニバーサルデザイン
移動空間、昇降設備、旅客トイレや待合室などの施設・設備については、すべての人が利用しやすいよう設計しています。

▼地域素材の活用
市民の皆さまに愛される駅舎とするために、それぞれの地域性を表現するデザインが求められていると考えています。その

表現のひとつとして地場産材などの地域素材をデザインに活用しています。

敦賀駅では地場産材として福井県産木材の活用を行う予定であり、内装デザインにおいてレングスを使用する予定です。

▼市民との協同によるデザイン決定
平成29年1月17日に市民の皆さまから「空にうかぶ～自然に囲まれ、港を望む駅～」というデザインコンセプトをいただき、デザイン案3案をご提案させていただきました。その後、推薦案を受け、デザインを決定いたしました。



■敦賀車両基地
延長約1.5km、面積約12haの車庫基地の中に、建築工事としては合計26棟、延べ床面積約3万7千㎡の建物を設置する予定です。主な建物は、次の3棟です。

【仕業検査庫】
(鉄骨造平屋建 約1万4千㎡)
建屋内に列車を停留させ、編成状態で機能確認や消耗品の補充、清掃を行います。

【着発収容庫】
(鉄骨造平屋建 約1万4千㎡)
回送列車7編成を収容する建物です。列車の屋根・パンタグラフへの積雪を防ぎ、出発および走行の安全を確保するため軌道上に上家を設置しています。

【総合事務所】
(鉄骨造5階建 約3千㎡)



■変電所
基地内の事務・管理業務および休憩・仮眠などを行います。

市内には業原地区および車両基地内に変電所があり、配電盤などを格納する建物を建設しています。詳細は次号(電気工事)にて説明いたします。

駅舎や車両基地などの建築工事はこれから本格化していきますが、市民の皆さまに愛着を持っていただけるよう、関係者一丸となって工事を進めてまいります。

地域で防ごう、高齢者虐待

高齢者への介護などの関わりは、周りが考える以上に心身に負担がかかります。感染予防による外出機会の減少、介護疲れ、相談相手がいないことによる孤立感など、さまざまな要因が重なり、虐待につながってしまうことがあります。



高齢者虐待はご近所など、身近でも起こりうることです。高齢者や家族が地域で孤立しないよう、あたたかく見守り、声をかけ合い、支え合っていくことが虐待防止につながります。また、虐待の芽を早期に発見することで深刻化を防ぐことができます。「虐待かな?」と思われるとき、また気になることがあったときは、地域包括支援センターへご相談ください。

高齢者虐待とは?

身体的虐待	叩く、蹴る、ベッドや椅子に縛る など
心理的虐待	ののしる、無視、嫌がらせ など
介護・世話の放棄、放任	必要な世話や介助を(ほとんど)しない、劣悪な環境の中での放置 など
性的虐待	同意のない性的接触、衣服を着せない など
経済的虐待	同意なしに本人の年金などを使う、必要なお金を渡さない など

- 「あいあい」(担当地域:粟野地区以外) あいあいプラザ内 ☎ 22-7272
- 「なごみ」(担当地域:粟野) つるが生協在宅総合センター和内 ☎ 21-7530
- 「長寿」(各センターと連携・協働し支援) 長寿健康課内 ☎ 22-8181

問合せ先 長寿健康課 ☎ 22-8181



認知症ほっとけんまち敦賀 リポート

認知症キッズサポーター 大活躍!

「認知症サポーター養成講座」を受講した約500人の小中学生が、家庭や地域の中で認知症の方を見守り、応援する「認知症サポーター」になっています。今回、キッズサポーターが大活躍した「素敵な声かけエピソード」をご紹介します。

素敵な声かけエピソード

家族の方が何回声をかけても、なかなか帰宅しなかった高齢の女性。すると、広場で遊んでいた小学6年生の児童2人がその様子を見かけ、「おうちの人が心配しているから、一緒に帰ろう。」と女性に声をかけ、車から守るように女性の両脇に寄り添いながら、自宅まで連れて帰ってくれました。

保健師から...

2人は、2年前に認知症サポーター養成講座を受けています。女性に声をかけ、寄り添ってくれた勇気ある行動に、心がほんわかと温かくなりました。

認知症になっても安心して暮らせるまち敦賀を目指して、あなたもサポーターになりませんか? ご依頼があれば、どこでも認知症サポーター養成講座が開催できます。

「認知症サポーター養成講座」の申込み・問合せ先 長寿健康課 ☎ 22-8181